九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Functional interleukin-33 receptors are expressed in early progenitor stages of allergy-related granulocytes

續, 啓史

https://hdl.handle.net/2324/1806898

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（別紙様式２）

氏　　名	續　啓史
論　文　名	Functional interleukin-33 receptors are expressed in early progenitor stages of allergy-related granulocytes
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　吉開　泰信 副　査　　九州大学　　教授　　古江　増隆 副　査　　九州大学　　教授　　大賀　正一

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

IL-33は、Th2細胞やB細胞等の獲得免疫に依存する従来型のアレルギー性炎症と、獲得免疫系に依存しない自然免疫型のアレルギー性炎症の双方において、重要な役割を担っている。IL-33反応細胞は多岐に渡り、成熟細胞だけでなく、幼弱な血液細胞（血液前駆細胞）もIL-33に反応することが示され、アレルギー性炎症に寄与していると考えられている。しかし、IL-33受容体が血液細胞のどの分化段階で発現し、IL-33がどのように、これらの前駆細胞を制御しているのかについては不明であった。

本研究では、機能型のIL-33受容体が、好酸球前駆細胞、好塩基球前駆細胞、肥満細胞前駆細胞の分化段階で発現することを明らかにした。また、IL-33がこれらの前駆細胞を刺激して、アレルギー関連サイトカイン（Th2及び炎症性サイトカイン）の産生を誘導し、IL-5依存的に、好酸球前駆細胞の段階から抗酸球増多を誘導することを明らかにした。これらの前駆細胞は、IL-33誘導性の炎症において、アレルギー関連サイトカイン及び顆粒球（好酸球・好塩基球・肥満細胞）の供給源として機能している可能性がある。

以上の成績は、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについてもほぼ適切な解答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格とした。